



- 立科小学校／午前9時～午前11時30分
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校／午後2時～午後5時
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館／
午前 11時50分～午後 1時40分
電話 56-0303(直通)・有線 8888 (直通)
(担当 指導主事 中島一彦)

指導主事だより

教育委員会

なんだかうれしい

来る日も 来る日も 「はじめての今日」



中庭でボール遊びに興じている子どもたちと先生の姿が目にとまりました。全力で向かってくる子どもたち。全力で向かいたくなった子どもたち。全力でぶつかってくれるから、本気になって遊んでくれるから・・・そんな先生だから、夢中になった子どもたち。

初めて教職に身を置いたN先生と受け持ちの子どもたちでした。

サッカーは少し苦手だけれど・・・子どもたちの全力疾走に、全力疾走で応えるN先生。

男子が思いっきり蹴り上げるボール、全力でぶつかってくる身体・・・「少し怖い」っていう思いもあったけれど・・・とN先生。

いつの間にか、子どもたちの夢中の中に身を置いている心地よさ、そして不思議さ。子どもたちに呼びかけられるように、子どもたちと一つになった瞬間が心地よくなっていく。N先生の額から滴る汗。

「ゴールは任せて!」と突然大声で子どもたちに伝えた先生。

その声にスイッチが入ったように守備に向かった子どもたち。

この呼びかけと応答のつながりが何よりも尊いものに思われるのです。

身体でぶつかっていったら、身体全体で応えてくれた先生。うれしくなった子どもたち。生き生きとする子どもたち。N先生の中に芽生えていく「つながる」ということの心地よさ。

子どもたちに添いながら、かかわりながら、「子どもたちを分かっていく教師としての自分」を育てていく。N先生の若さ溢れる教職生活のスタート。立科町での子どもたちと先生方の出会い。「先生、がんばれ」と声をかけたい気持ちになりました。

「先生、いいものみつけたんだよ。ほら」

今朝、低学年のSさんとMさんが、突然声をかけてくれました。

「先生、いいものみつけたんだよ。ほら」とSさんが、包み込んだ両手をそっと広げてみせてくれました。大きなふきのとうです。Mさんもそれに続きます。春の香りがふっと広がりました。

～みずみずしい取れたてのきれいな色をしています。なんとも言えない いい匂いです。この黄緑の色には、冬の精が溶け込んでいます。この匂いは、大地のすべての生きものを生かす力が溶け込んでいます。ふきのとうはどんなに寒くても、雪が深くても、春になると元気よく、美しく芽生えてきます。厳しい寒さと深い雪の中であって、春がくれば、一番先に元気よく出てくるふきのとう。人間で言えば、苦しいことや辛いことに負けないで、じっと力を蓄えていく強い意志をもった人間、それでいて豊かな味のある優しい人でもあります。

とは毛涯章平先生の言葉です。

※毛涯章平先生：元 豊丘村教育長



SさんとMさんの言う「いいもの」には、ひょっとしたら、そんな意味があるのかなと考えてみたくなりました。「ふきのとうのように、踏まれても、苦しくても、元気に大きくなっていきます」そんな気持ちを二人が伝えてくれている・・・とも考えてみたくなりました。

立科の子どもたちの
この1年の決意を見ました。